

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

十勝管内 幕別町立白人小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・地域に対する誇りや愛着を育むため、地域の歴史や文化等について調べる活動を位置けるとともに、アイヌ民族文化財団のアドバイザーを講師として招聘し、講話や体験活動を通じて、アイヌの人たちの歴史・文化等について探究的に学習しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用し、アイヌの人たちの言葉が使用されている地名などのクイズを出題し、アイヌの人たちの歴史・文化等に対する興味・関心を喚起し、「アイヌの人たちの文化等について調べたことをスライド資料にまとめ、ICTを活用して紹介し合う」という学習課題を設定しました。

(2) 情報の収集

児童一人一人が「踊り」「言葉」「衣服」などのアイヌ文化に関するテーマを設定し、「アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－」（公益財団法人アイヌ民族文化財団発行）などを活用して、調べ学習を行いました。また、公益財団法人アイヌ民族文化財団からアイヌ文化活動アドバイザーを講師として招聘し、アイヌの人たちの文化に関する講話やアイヌの人たちの伝統舞踊について体験し、課題解決に取り組みました。



【伝統舞踊を踊る様子】

(3) 整理・分析

調べ学習や講話、体験活動などの情報を整理・分析し、『バッタキウポポ』など十勝にのみ伝わる伝統舞踊があり、後生へ伝承していること」「学校の名前の白人（ちろっと）は、アイヌ語で『鳥が多く生息する沼』であること」などについて理解し、アイヌの人たちの文化と地域との関わりについて考えました。

(4) まとめ・表現

ICT端末を活用し、「踊り」「言葉」「衣服」など、自らが設定したテーマに基づくスライド資料を作成し、発表会を行いました。発表会や振り返りなどから、児童は、地域やアイヌの人たちの歴史や文化等について更に関心を高め、新たな疑問や課題等を見出していました。

②児童の感想等

- ・アイヌの人たちの文化について調べる学習を通して、自分たちが住んでいる地域とアイヌの人たちとのつながりが分かり、これからもアイヌの人たちの歴史・文化等について学んでみたいと思いました。
- ・実際に衣装を着てアイヌの伝統舞踊を踊り、踊りに込められた思いなどを感じることができました。他の踊りも踊ってみたいと思いました。

■取組の成果（○）と課題（●）

- 学習後のアンケート調査では、「北海道や自分たちの住んでいる地域に誇りや愛着をもっている」と回答した児童の割合が85%を超え、探究的な学びのプロセスに体験活動を位置付けたことが効果的であったと考えられます。
- アイヌの人たちの歴史・文化等に関する系統的な指導の充実に向けて、地域人材や教育施設等の効果的な活用方法や活用場面を検討し、各教科等との関連を図った教育課程を編成する必要があります。